

本の情報	内容
<p>『じゅんばんこ!』</p> <p>季巳明代 作 はせがわかこ 絵 フレーベル館 2014.6</p> <p>1110877240</p>	<p>年長組になったさくらこちゃんは「ひとりでねる」と宣言します。おかあさんの心配をよそに、さくらこちゃんは自信満々。お気に入りのぬいぐるみたちと、毎ばん「じゅんばんこ」にねることにします。順番表を作り、ぬいぐるみも順番どおりにならべ、毎ばん1人でねていました。ところがある日、おかあさんが、ぬいぐるみをおもちゃ箱に片づけてしまいます。順番がわからなくなったぬいぐるみたちは、順番のとりあいをはじめます。</p>
<p>『ぼくのベッド』</p> <p>マルタン・パージュ ぶん サンドリーヌ・ボニーニ エ かわむらまきこ やく 近代文藝社 2014.5</p> <p>1110845050</p>	<p>学校に行きたいなあ。でも、ぼくのベッドはどうしてもはなしてくれない。ぼくのせいじゃないよ。ぼくはベッドから出たいんだ。でも、ふとんのなかはあたたかくて気持ちがいい。起きるには、ベッドと戦わなくちゃいけない。でも、とてもかなわない。ああ、なんだか眠くなってきた。ぼくの負けだよ。そのとき「あさごはんが、できたわよ!」という声をきいたぼくは…。</p>
<p>『オオサンショウウオ』</p> <p>福田幸広 しゃしん ゆうきえつこ ぶん そうえん社 2014.7</p> <p>1110880540</p>	<p>中国山地の山奥の川でくらすオオサンショウウオの産卵や子育ての様子を、写真で紹介しています。ふだんは、石のようにじっとしているオオサンショウウオですが、年に1度、長い旅をします。オスは、川のふちにできた小さな穴を見つけると、巣穴とするために中に入り、メスをまねき入れます。メスはそこで産卵し、オスが卵を守り育てます。およそ6ヶ月の間、オスは巣穴で子育てをします。</p>
<p>『ライオンのひみつ』</p> <p>マーガレット・ワイルド 文 リトバ・ポウティラ 絵 木坂涼 訳</p> <p>国土社 2014.6</p> <p>1110862810</p>	<p>図書館の入口に、石でできた立派なライオンがすわっていました。図書館にやってくるサラという少女は、時々このライオンにくっついて、ぼろぼろと泣くこともありましたが、ライオンには、楽しいとか悲しいとかいう気持ちはわかりませんが、動いてみたいという気持ちはありました。雪の降るある晩、サラとその弟が、ライオンの前でたおれこんでしまいます。ライオンは、二人を救いたいと強く願いました。すると、ライオンの目から涙がながれ、心臓が鳴りはじめたのです。</p>
<p>『ヒワとゾウガメ』</p> <p>安東みきえ さく ミロコマチコ え</p> <p>佼成出版社 2014.5</p> <p>1110854809</p>	<p>島に1頭だけいる、長生きのゾウガメ。今までたくさんの友達を見送り、悲しい思いをしてきたゾウガメは、もう友達などいらないと思っていました。そんなゾウガメのもとに、毎日やってくるヒワという小鳥がいました。ヒワは、海の向こうに「ゾウ」という生き物がいることをゾウガメに話し、ゾウを探すため海のかなたに飛び立ちます。しかし、いく日も戻ってきません。はじめは、ヒワがいなくなり気楽に思っていたゾウガメでしたが、次第に、いてもたってもいられなくなっていきます。</p>
<p>『北加伊道(ほっかいどう) 松浦武四郎のエゾ地探検』</p> <p>関屋敏隆 文・型染版画 ポプラ社 2014.6</p> <p>1110868555</p>	<p>「北海道の名づけ親」といわれる松浦武四郎。彼は今から160年ほど前、当時エゾ地とよばれていた大地をくまなく探検しました。武四郎は、エゾ地に暮らすアイヌの人々の助けを借りながら探検する中で、アイヌの生活や文化を知ると同時に、その苦しみも知ります。それらを多くの人に伝えるため、地図や日誌、紀行文を著しました。今、北海道の地図に記されている多くの地名は、武四郎の記録をもとにしたものであり、アイヌ文化のあかしなのです。</p>